

“まちっ子の森”から“六甲山頂・散歩道”づくりへ

堂馬英二（六甲山を活用する会）

1. はじめに

瀬戸内海国立公園六甲山地区の標高800m付近の雑木林を“まちっ子の森”に景観整備し、環境学習や自然体験に活用しています。さらに、隣接する近畿自然歩道を補修して、市民が親しむ“六甲山頂・散歩道”へと整備しています。地域を知り活用する活動から、地域環境を保全する活動に進展しました。

2. “まちっ子の森”づくりを進めています

国立公園六甲山上の記念碑台から近畿自然歩道を西に10分足らず。二つの池を取り囲む雑木林一帯1.2haを借地して、六甲山麓の学童や家族が、六甲山の雑木林に親しめる“まちっ子の森”として景観整備しています。

密生するミヤコザサやアセビを伐採して、落葉広葉樹主体の森に復活する実験調査に着手して4年。調査区域は約2,000平方メートル、伐採したアセビは400本になります。

平成24年6月に山麓で「まちっ子の森展」を開催して、拠点での広報活動にも着手しました。四季の「六甲山子どもパークレンジャー」のイベントを継続しつつ、日常的な自然体験で来訪する人を増やしています。



明るい森で「冬のパークレンジャー」の参加者

3. “六甲山頂・散歩道”づくりに着手しました

昭和の初期から「サンセットロード」と親しまれた散策路で、六甲山の自然環境を代表する静寂の山道です。3年計画で、市民が安全・快適に散策できる「六甲山頂・散歩道」の実現を目指しています。第1期は、有刺鉄線フェンスの改修や急な坂道等に木柵を設置、破損した案内看板の取り替えなどを実施しました。これらの作業を実施、積年の課題をクリアするまでの道のりは大変長かったです。

監督官庁の許認可や主管行政との調整、地権者の了解や関係者の賛同などの取り付け、そして費用の捻出や施工方法の案出等々、面倒で諦めたくなくなるほどでした。



山道の補修に精を出す活動スタッフ

4. 都市山を「市民が担う」実践例です

六甲山は「都市山」として魅力的な自然環境で、山麓の市民が日常生活で活用できることを期待しています。明治以降リゾート開発されてきた山上には、生粋の住民は少なく地域コミュニティは衰退状態です。観光を中心とした山上の事業も収益難です。

最近ではゲリラ豪雨などで山道が荒廃するのが懸念されています。しかし、山道を維持管理する行政機関は住民サービスに打ち込む余裕を無くしています。そんな状況で、一市民団体が進んで

環境整備を引き受けたわけで、山道管理を主管する行政の担当者からも感謝されています。

私たちは、山道の改修作業をしている際に、散歩道を利用される方々から「ありがとう！」とお礼を言われ、お役に立てることを実感しました。また、額に汗する活動自体を楽しんでいます。

これまで、六甲山は観光やハイキングなどのレジャー、環境学習や自然体験など、つまり、「**使い手**」の活用に関心を注いできました。わたしたちの試みは、市民自身が環境の「**担い手**」になったこととなります。それはけっこう楽しいことです。六甲山の楽しみ方を転換するような、新しい次元でのレジャーに育っていけばいいと思います。

